

1月  
臨時県議会特集

介護人材の養成

高卒者の職場実習委託

# 緊急経済対策を決定

新型インフルエンザ対策

橋や道路の補修

など

雇用や経済が一向に明るさを見ない中、県は1月27日（水）に臨時県議会を開き、主に国の緊急経済対策を反映した補正予算案を提出し、賛成多数で可決しました。

日本共産党県議団は、補正予算の中身が雇用の創出や、生活密着型の身近な公共事業など、以前から求めてきたものが盛り込まれていることから、賛成しました。びぜん光正議員が質疑を行い、「派遣切りがトップクラスの長野県で、継続的に正社員として働くことの出来るような雇用に繋がる、県独自の施策が必要」と求めました。



上田「陽だまりネット」は、「年末年始生活支援の家」実行委員会として、市の協力を得て「年越しの家」を上田市勤労青少年ホームに設け、60名を超える人々が相談や食事物資配布などに訪れ、宿泊した人も6名になりました。

## 雇用の安定確保

(金額は今年度分と来年度以降の分の合計)

### 新卒未就職者等人材育成事業

未就職の高卒者が一年間民間企業で働きながら職場実習を受ける。受入企業は原則として研修終了後、正規採用するよう努力する

261人分 8億3,338万円

### 介護人材の養成・雇用創出

失業者等が介護施設等で働きながら、ホームヘルパーや介護福祉士の資格を取るための講座を受ける費用の助成

90人分 2億4,259万円

### 重点分野における雇用の創出

介護、医療、環境等、今後成長が期待される分野で、地域のニーズに応じた人材を育成し、新たな雇用を生み出すための「基金」の積み増し

30億円

年明け早々、党県議団は、地域福祉課、住宅課とこん談、仕事や住まいをなくしたり、生活に困っている人々への支援策、年末に行われた相談の状況など聞きました。



地域福祉課とのこん談（1月5日）

## そのほかのおもな事業と予算額

### 生活密着型のきめ細かな社会資本整備（54億4千万円）

老朽化した橋や道路の補修、電線の地中化、信号機設置、通学路の整備、高校や特別支援学校施設の改善、県立病院の改修他

### 新型インフルエンザ対策（1億3,789万円）

入院医療の提供に必要な人工呼吸器等の整備、低所得者のワクチン接種費用負担軽減

### 中央児童相談所の移転改築の設計費（994万円）

## 日本共産党県議団です



石坂ちほ（長野市）  
社会衛生委員会  
広報委員会



小林伸陽（上伊那郡）  
文教企業委員会



藤沢のり子（松本市）  
総務企画警察委員会(副委員長)  
公共交通対策特別委員会



高村京子（上田市  
小県郡）  
危機管理建設委員会  
公共交通対策特別委員会



もうり栄子（岡谷市  
下諏訪町）  
環境商工観光委員会  
議会運営委員会



びぜん光正（塩尻市）  
社会衛生委員会(委員長)



和田あき子（長野市）  
農政林務委員会  
決算特別委員会(委員長)

過去最多の3,682名で

# 「浅川ダム建設への公金支出差し止め」の

# 住民監査請求



監査請求署名を提出 (2009年12月22日)

昨年12月22日、「浅川ダム建設差し止めの監査請求を進める会」(代表:神戸今朝人氏)が、監査請求署名を県監査委員に提出し、1月13日には「公開意見陳述」が長野保健福祉事務所で行われました。その中から一部をご紹介します。(全員の陳述

意見全文は党県議団ホームページに掲載)

県の建設部は意見陳述せず、文書を提出しただけでした。監査委員は2月22日までに、監査結果を報告する予定です。このような中、県はダム本体工事の仮契約を強行しました。



## 100人を超す傍聴者が見守る中、15人が陳述

【一部を抜粋】

### 石坂千穂県議

2001年「長野県治水・利水ダム等検討委員会」の浅川部会長となり、13回の部会と公聴会1回を開催。部会は、ダムサイトのFV断層の追加掘削調査を行ない、第四紀断層(活断層)であることが立会った5名全員の専門家によって確認された。「治水・利水ダム等検討委員会」は、浅川のダムによらない治水対策を答申、浅川ダム建設は中止、本体工事の契約解除、総合的な治水対策の検討が始まった矢先、村井知事が当選。穴あきダム建設の方針が表明された。

知事は、「浅川ダムについては既に住民参加で、専門家も交え十分な検討と議論を重ねており、改めて検証する必要は無い」と主張しているが、その十分な検討を覆したのが、「穴あきダムへの方針転換」。駆け込み発注・建設は止め、河川法改正の最大の留意点である「住民参加」「環境への配慮」を活かしてほしい。

### 神戸今朝人氏

浅川は改修により11cm掘り下げられ、川幅も広げられた。しっかりした河川管理を進めることによって、災害の危険をなくすことが出来ることは明白。もうダムは必要ない。最下流域の内水対策で、浅川排水機場増強など、必要な対策が後回しになっている。わずか20.8%しか集水の無い上流にダムを造っても何の足しにもならない。

### 中沢 勇氏

浅川ダム建設計画は、千曲川合流点における基本高水流量を450トン/秒と想定して策定されているが、実態とかけ離れた過大な基本高水が浅川ダム計画の誤りの根底。浅川流域で起きている災害は千曲川の増水によるもの。危機が迫っている千曲川対策、特に堤防決壊が起きないように対策を国に要望するべき。

### 内山卓郎氏

ダム予定地の周囲2キロ以内には6ヶ所の地すべり防止区域、面積合計300㌦や未指定の地すべり地もある。地質条件が劣悪な場所にダムを建設することは、地すべりや土石流、更に洪水の発生を招き、下流域で多数の住民の生命を危険にさらす事態を引き起こすことを意味している。

### 野々村博美さん

1985年に起きた地附山地滑り災害で住宅を失った。地域の古老たちは昭和14年に起きた「論電が谷池」決壊の記憶、善光寺地震の被災状況が語り継がれている。善光寺平西側の縁辺地帯は日本列島有数の活断層の密集地帯。地附山地滑り被災者の一人として、松寿荘で命を落とされた26人のお年寄りの無念さを考えた時、この無謀で無責任なダム建設を許してはならない。



意見陳述 (1月13日)

### 佐藤久美子さん

浅川流域協議会の座長として約4年半、議論に関わった。協議会は2003年8月、62名の参加で発足、12月に提言書を提出した。村井知事が「浅川穴あきダム」を提案した翌年5月、二回目の提言書提出。ダム建設では賛否譲らぬ会員も、①内水対策として遊水地を位置づける、②千曲川の河川改修等を国に引き続き働きかける。の2点では一致した。賛否の分かれるダム建設を進めるのではなく、新河川法に基づき県が設置した流域協議会で、委員の意見が一致したことこそ進めるのが当然ではないか。

### 原田誠之氏

長野市長選前の地元新聞の調査で、長野市民の63%が「浅川ダムに反対」と意思表示している。2004年10月の台風23号では、基本高水450トンと算定した24時間降雨量133ミリに匹敵する125.5ミリとなったが、この時浅川に出た水量は、富竹地点で43.8トン。千曲川合流地点の基本高水450トンに対して富竹の基本高水は260トンだった。

### 山本千津子さん

栄村の千曲川には堤防のない箇所、住宅の裏が絶壁のようになり、千曲川河原にどんどん崩落し家が崩壊してしまうのではないかとという箇所もある。村道は良くなっているのになぜ県道がいつまでも悪いのか。危険なダムを造るより、生活道路や千曲川崩落箇所など、命に関わる所を早急に改良していただきたい。

### 新津みさ子さん

長野医療生協は、困難を抱えた人たちの相談や治療継続に取り組んできた。昨年秋、県は福祉医療給付の負担金を引き上げたが、市町村によっては引上げ分を負担しているところが幾つもある。財政が厳しい時だからこそ、限られた財源を県民の命や暮らしを守るために使ってほしい。

## 日本共産党県議会報告

2010年2月 号外

発行/日本共産党長野県議団  
〒380-8570 長野市南長野幅下692-2  
長野県議会日本共産党控室  
☎026-237-6266(直通) FAX026-237-6322  
ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/>  
E-mail [jcpngnkd@avis.ne.jp](mailto:jcpngnkd@avis.ne.jp)